

# 令和5年度 「道徳教育応援チーム派遣事業」 実践校の取組



## 【道徳教育応援チーム派遣事業】

栃木県では、道徳教育の充実を目指して取り組んでいる学校に対し、教育事務所や市町教育委員会と連携を図りながら、指導主事をチームとして派遣しています。

本事業は、道徳科の授業改善や教師の指導力の向上、児童生徒の発達の段階に応じた道徳性の確かな育成を目指すものです。

令和5年度は、次の2校で実践を行いました。

- ・足利市立名草小学校
- ・壬生町立南犬飼中学校



このリーフレットでは、本事業に協力いただいた各学校での取組や成果・課題等について紹介しています。

各学校における道徳教育や道徳科の授業のより一層の充実に向け、実践校での事例をご活用ください。

\* 本リーフレットでは、「特別の教科 道徳」を「道徳科」と表記します。

令和6（2024）年3月  
栃木県教育委員会

### ◇研究のねらい

本校は素直で明るく、互いのよさを認め合える児童が多い。しかし、学校評価や自己評価の結果から、自己肯定感の低さが感じられた。そこで、少人数の単学級という環境においても、児童が心豊かに生きていくため、自分に自信をもってよりよく生きていけるような道徳教育について研究を進めた。

### ◇実践内容

#### 特色を生かした道徳教育の展開

- 本校の特色である少人数・単学級のよさを生かした道徳教育について共通理解を図ることで、全職員が高い意識をもって児童一人一人に関わることができた。
- 児童一人一人のよさを全職員で見取ることで、児童のよさを認めた教師がその場で価値付けを行ったり、道徳的価値の高い行動を担任に伝えたりすることが意識して行われるようになった。



【道徳の授業の様子】

#### 教職員の学び合う集団づくり

- 授業研究会では、ねらいとする価値に対する振り返りを行うことで、成果を称賛するだけでなく、授業改善に向けた意見を中心に深い協議を行い、日々の道徳の授業の指導改善につなげた。
- 気兼ねなく相談し合える雰囲気を作ることで、道徳のみならず他教科の指導においても教職員の学び合う集団づくりにつながった。



【授業研究の様子】

#### 外部講師による提案授業

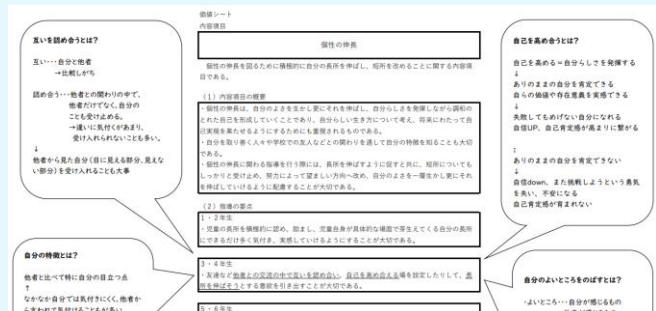
- 白鷗大学中山和彦講師による提案授業を通して、ねらいにせまる工夫として、教師が児童の発言を聞いた上で「問い返し」を行うことの大切さについて学んだ。
- 児童の発言に耳を傾け、「そこを深めたい、そこを広げたい」と思うところで「問い返し」をしていくことが重要であり、普段の授業においても、児童の発言に耳を傾けることに対する意識が高まった。



【外部講師による提案授業の様子】

#### 価値シートを活用した授業づくり

- 授業でねらいとする道徳的価値を分析する「価値シート」づくりを指導案検討に取り入れた。児童の反応を想定したり、分かりやすい言葉に置き換えたりしながら議論を重ねることで、教師自身が道徳的価値について理解を深めることができた。
- 教師がねらいとする道徳的価値をしっかりと捉え、関連する内容項目についても分析した上で授業を行うことで、児童から多様な視点からの意見が出て、補助発問によって焦点化し、ねらいとする道徳的価値を深めることができた。



【価値シートの一部】



### ◇研究のねらい

本校は、互いに励まし、高め合い、協力する精神で生活する生徒が多い。また、学校行事にも熱心に取り組む前向きさも見受けられる。そこで、研究主題に据えた「人それぞれの違いや良さを重んじ」ることは、日々のより良い学校生活に寄与すると考えた。道徳科の授業を通して、人との関わり合いを大切に、明るく温かな学校・学級の雰囲気作りの醸成を目指した。

### ◇実践内容

#### 校内研究授業



- 一つの教材について、長期間、多くの教員が関わって授業研究することで、発問の在り方やICT機器の有効な活用法等の授業改善につながった。

- 考え、議論する授業の中で、自身の思いや考えを臆せず発表し共有しようとする生徒の新たな良さを発見することができた。



【研究授業(最終回)の様子】

#### 校内研修の充実

- 道徳教育推進教師を中心とし、学年外の教員も共に指導案検討やプレ授業を重ねることで、実践的な研修につながった。
- タイムマネジメントや板書の工夫、発問の言葉の精選といった、ねらいに迫るための吟味を重ねることで、生徒が養いたい道徳的価値を熟考することができた。
- 研究授業後の協議会では、良かったところだけでなく、より良い授業のための策を職員全体で共有し、若手とベテランの教師が互いに高め合うことができた。



【タブレットを用いた協議会の様子】

#### 考え、議論する場の工夫

- 考え、議論する場の工夫として、コの字学習も取り入れることにより、自分の考えや思いを近くの子と自由かつ容易に伝え合うことができた。自己を見つめ、他者の考えや思いに多面的・多角的に触れることで、生徒は人間としてのより良い生き方について考えることができた。
- 討論形式の話合いや役割演技を通して内容を深めるほか、宇都宮大学 和井内良樹教授の提案授業を受けて、トリオ学習を導入した。生徒が、内容を自分の事として捉え、より主体的な話合い活動をする一助になった。
- 生徒の発言を「繋ぎ」「生かし」「深める」展開ができるよう、教師対生徒だけのやりとりに終始しない教師のファシリテートを重視することで、生徒自身の考えを深める授業が実践できた。



【コの字学習の様子】



【和井内教授による提案授業】



【トリオ学習の様子】

## 足利市立名草小学校

### ○成果（児童や教師の変容等）

- 学校全体で行う道徳教育への理解が深まり、小規模校・単学級よさを生かして「互いのよさを認め合い、よりよく生きる児童を育てる道徳教育」の充実が図れた。
- 本研究を通して、子供も教師も学び合う道徳の授業が展開され、教師の指導改善につながった。
- 外部講師による提案授業と講話で得た学びを、指導案検討や授業研究会に生かすことができた。
- 「価値シート」を用いてねらいとする内容項目について分析することから始めたことで、ねらいとする価値に対する理解が深まった上で、指導案検討会ができた。

### ●今後の取組

- 普段の授業において、発問や問い返しに対する教師の意識が高まり、児童が自分の考えを安心して発言できるような工夫が行われるようになった。しかし、1学級の人数が少ないこともあり、児童から多様な考えを引き出すことが難しかった。他者との関わりの中で児童の考えを引き出すための工夫と併せて、個人内で考えを深めたり、別の視点から考えたりすることができるよう、今後も研究を深めていきたい。

## 壬生町立南犬飼中学校

### ○成果（生徒や教師の変容等）

- 考え、議論する場の工夫を行ったことで、自分の考えや思いを表出できる生徒が多くなった。また、他者の考えや思いを聞き、「なるほど」「そんな考えもあるな」と新たな道徳的価値に気付く生徒が増えた。
- 道徳の授業が「楽しい」と思える教員が増えた。ICTを活用したり、板書や発問、問い返しの言葉を考えたりする中で、教員同士が助け合い、学び合いながら授業づくりに励むことができた。

### ●今後の取組

- 「考え議論する道徳」への授業改善を目指し、生徒の発言を「繋ぎ」、「生かし」、「深める」授業が展開できるような工夫を継続するとともに、生徒の振り返りを継続活用し、教員が自らの指導を見つめ、授業改善を図っていきたい。
- 本校の特別活動や総合的な学習の時間等での特色ある取組を生かし、道徳科が道徳教育の要として、補充、深化、統合の役割をさらに果たすことができるよう、別葉を活用しながら全教職員でさらに理解を図って取り組んでいきたい。
- 道徳科の更なる授業改善に向けて、教師が明確な指導観をもつこと、生徒の発表をコーディネートする力を高めること等に取り組んでいきたい。

